

## 心の中の最も美しい場所

範曉萌

教育学部 交換留学生 中国

2ヶ月前、まだ和歌山に来ていなかった私がなぜ和歌山を来たのかと聞かれたら、当時は和歌山のことをほとんど知らなかったので、学校に行くためだと答えただろう。しかし、2ヶ月間和歌山に住んでいる今、その質問をされたら、私にはたくさんの理由がある。和歌山にいた2ヶ月間は、まるで素晴らしい夢のようで、ここでのすべてが非現実的な美しさである。

初めて和歌山に来たとき、私はこの街ののどかで穏やかな生活と、人々の温かく素朴な文化に魅了された。和歌山の美しい自然の風景は、まるで自然の詩のようであり、流れるような絵画のようであり、美しさと魔力に満ちている。私は、喧噪や人ごみ、高層ビルが立ち並ぶ大都会の美しさよりも、和歌山の無垢な清潔さと素朴さに惹かれるものがあった。和歌山は、歴史と自然の美しさにあふれた場所である。和歌山に着いたのは桜が満開になった4月だった。夕方、まだ日が暮れきらないうちに古い和歌山城に来て、和歌山城の東口にある小さな橋の下に水が流れ、澄んだ水に群れをなした鯉も頭を上げて岸に咲く桜を眺めてうっとりしていた。道の両側の赤い提灯の柔らかな光が桜に映えて、桜はもっと優しく魅力的に見える。城全体や周囲の空き地が満開の桜に覆われ、幻想的な光景を醸し出している。



和歌山といえば、和歌山の海である。初めて和歌山の海を見たのは、加太の海岸だった。夕暮れ時で、ピンク色の空と海が溶け合っていた。この光景を見たとき、私は言いたいことがたくさんあるような気がして、目の前の美しさを表現する言葉を必死に脳内で

探しているのだが、結局、この衝撃的な美しさを言葉にできず、黙って目で静かに鑑賞しているだけだった。私はただ、この景色に溶け込みたかったのだ。ピンク色の和歌山線に乗って海へ向かい、30分という短い時間の中で、窓の外の美しい景色を楽しんだ。電車を降り、グーグルのナビに従って、花々が並ぶ小道を抜けると、ようやくビーチと海、そして青い空が見えてきた。ビーチは他の場所より人が多かったが、加太に行った時は、私と友人と高校生のグループがビーチで遊んでいるだけで、まるでアニメで見るような光景だった。

南紀白浜で再び和歌山の海を見たのだが、水がとても澄んでおり、その下に珊瑚礁が見えた。海は不規則な岩の輪に囲まれており、中には緑の苔や海藻の層で覆われているものもある。青い水と白い雲に覆われた青空が、華やかな海の風景を作り出している。海岸線に打ち寄せる波のうねりは、心に響く波の音を発し、まるで自然に抱かれているようなリラックス感と静寂をもたらした。海岸線には、ユニークな形の岩が点在している。これらの岩は波に洗われ、さまざまな不思議な形を作り出し、海辺の風景に独特の魅力を添えている。太陽がゆっくりと沈むと、空はピンク色に染まり、海は夕陽の光を反射して、魅惑的な光景を作り出す。白浜の砂浜を歩いて、砂浜の真っ白な砂と澄んだ海水からなる絶景を鑑賞した。私は靴を脱いで、裸足で柔らかい砂浜に足を踏み入れて、海風が私の顔をそっとなでているのを感じた瞬間、まるで違う世界に入ったようだった。海岸線に沿って歩いていると、足元の砂が波に打たれてリズムカルに音を立てた。私は一握りの砂をすくって、指先に流れる砂の感触を感じた。波は私の足の指を軽くたたいて、毎回涼しさをもたらして、私はまるで海と踊っているようだ。私は和歌山の海のすべてが好きで、平和と喜びを与えてくれる。和歌山の海に来るたびに、私は癒しと安らぎを得ることができる。



たった2ヶ月で、私はすでに和歌山を、そしてここでの生活を愛してしまった。和歌山での毎日には新しい物語があり、和歌山のどの海にもそれぞれの美しさがある。和歌山での残りの期間、私は和歌山のあらゆる季節を経験し、より多くの和歌山の美しさに出会っていく。和歌山で過ごしたこの貴重な思い出は、私の一生の宝物になることだろう。

## 心中最美的地方

氏名 范晓萌

所属国籍 中国

如果要问两个月前还没来到和歌山的我为什么选择来这座城市，当时对和歌山几乎一无所知的我肯定支支吾吾只说是为了上学。可要是问现在已经在和歌山生活了两个月的我这个问题，我却有很多很多理由要说。来到和歌山的这两个月里像是做了一个很美好的梦，这里一切都美的那么不真实。

初到和歌山便被这座城市宁静与温和的生活和热情淳朴的民风深深吸引。和歌山美丽的自然风景，似天然的诗篇，流淌的画卷，充满了美丽与神奇。比起大城市的繁华嘈杂，人山人海，高楼大厦的美，我更倾心于和歌山一尘不染的干净淳朴。和歌山是一个充满历史和自然风光的地方。初到和歌山的时候正值樱花盛开的四月份。傍晚时分，天还没有完全黑的时

候来到古老的和歌山城，和歌山城东门口的小桥下，河水流过，清澈的河水里成群的鲤鱼也抬起头望着岸上盛开的樱花出神。路两旁的红色灯笼发出的柔和的光映在樱花上，显得樱花更加温柔迷人。整个城堡和周围的空地都被盛开的樱花所覆盖，营造出一幅梦幻般的景象。

说到和歌山，那就不得不提和歌山的海。第一次见到和歌山的海，是在加太海边。当时正值日落，粉色的天空和海面融为一体。看到这个场景，我似乎有许多话要说，我拼命在大脑中寻找该用什么词语来形容眼前的美景，但最终却还是不知从何说起，正应了那句此时无声胜有声。只想融入这景色中。再到加太海边是坐着有着和歌山特色的粉色的电车去的，在短短的三十分钟的车程里却享受了不少窗外的美丽风景。下车后跟着谷歌导航，穿过一条条开满鲜花的小路终于见到沙滩，大海和蓝天。比起其它地方人山人海的海边，那次去加太，偌大的一片沙滩上只有我和朋友，还有一群在海边嬉戏玩闹的高中生，那画面就像在动漫里才会出现的画面一样。

再次见到和歌山的海是在南纪白滨，白滨海边的海水清澈透明，让人仿佛能看到水底的珊瑚礁。海的周围镶嵌着一圈不规则的巨石，有的石头上还覆盖着一层绿色的青苔和海草。湛蓝的海水与蓝天白云相映成趣，构成了一幅绚丽的海景画面。海边起伏的海浪拍打着海岸线，发出心旷神怡的涛声，让我仿佛置身于大自然的怀抱之中，带来一种放松和宁静的感受。当太阳缓缓下沉的时候，整个天空被染上粉红色的色彩，海面反射出夕阳的光芒，构成了一幅令人陶醉的美景。走在白滨的沙滩上，欣赏着沙滩上洁白的沙子和清澈的海水组成的一幅绝美的画面。我脱下鞋子，赤脚踏上柔软的沙滩，感受着海风轻轻拂过我的脸庞，那一刻，我仿佛进入了一个完全不同的世界。我沿着海岸线漫步，脚下的沙子被浪涛拍打得有节奏地咔哒作响。我捧起一把沙子，感受着它从指缝间流失的感觉，海浪轻拍着我的脚趾，每一次都带来一阵凉意，我仿佛在与大海共舞。我喜欢和歌山大海的一切，喜欢它带给我的宁静和欢乐。每一次来到和歌山的海边，我都能找到心灵的慰藉和平静。

在这短短的两个月里，我就已经深深喜欢上了和歌山，喜欢上了在这里的生活。在和歌山的每一天都有新的故事发生，和歌山的每一片海都有各自的美。在剩下的在和歌山的日子，还会经历和歌山的每个季节，还会遇到和歌山更多的美。在和歌山的这段宝贵的记忆将会被我珍藏一生。